

## 医学雑誌での査読の意義と実際

森脇 義弘<sup>1)2)10)</sup>, 平岡 毅郎<sup>3)10)</sup>, 永瀬 正樹<sup>2)4)10)</sup>,  
森山 直美<sup>5)10)</sup>, 小早川裕子<sup>5)10)</sup>, 藤原 誠<sup>6)10)</sup>,  
長谷川英美<sup>7)10)</sup>, 渡部 初枝<sup>8)10)</sup>, 勝部 琢治<sup>9)10)</sup>

**要 旨**：学術発表では、内容の最終的責任は著者にあるが、発表後の影響を考慮すると適正であることも求められる。論文発表は編集委員会、査読者と著者との共同作業となる。専門性が高い分野では適正さは絶対的知識勾配のため非専門家には評価できない。同じ領域の専門家の評価が必要で、この第一関門が「査読」となる。論文の対象の選定や方法、結果の解釈や分析、そこから導かれた結論とその思考過程が適正か、妥当か、独善的でないか、偏っていないか、著者自身に不利な情報もきちんと提示されているか、誤解され将来の患者に悪影響が及ばないか、などを評価する。悪意なく気づかず行われた場合も含めた不正行為（剽窃・盗用、捏造、改ざん、二重投稿など）の評価も行う。通常、査読者は匿名化され、著者と直接交渉はできない。査読者には倫理的な守秘義務があり、発表前に他言したり、アイデアを自分のもののように扱ってはならない。

**キーワード**：同僚審査、COPE (Committee on Publication Ethics)、不正

(雲南市立病院医学雑誌 2016; 13(1): 53-56)

### はじめに

本誌では、学術部門への投稿に査読制度を取り入れている。医学雑誌での学術発表では、内容の最終的責任は著者にあるが、発表された後の影響を考慮するとある程度適正な内容であることも求められる。論文作成、発表は編集長や編集委員、査読者と著者との共同作業となる。医学雑誌のように専門性が高い場合、専門家以外には発表の妥当性さえ評価できないことが多く、同じ専門家が「論文の内容が妥当か（結果の妥当性ではなく結果を導いた方法や手段の妥当性）」、「このままの形で世の中に出回った場合、専門でない素人が誤った判断をせずすむか」などをチェックする必要がある。この第一関門が「査読」となる。

医療の分野では、医療従事者以外の非専門家にとって解決できない絶対的な知識勾配のため、医療の専門家を信用せざるを得ないことが多い。ビルや橋も、その建設に携われない非専門家には、その安全性を理解することや確認することは困難である。医療という専門性が高く、対象の生命や健康に直結する分野では、より厳重に考えられなくてはならない。更に、医療は、適切に行われなければ「避けられた死や障害」に「積極的に」直結してしまう特殊な分野でもある。従って、社会に対する責任として、同じ専門家として、自分達の同僚が行ったことが客観的に妥当と考えられるかを、懐疑的な視点から監視しあう必要があると考えられる。これは、互いの牽制のし合いやつぶし合いではなく、監視社会という意味でもなく、専門家集団とし

<sup>1)</sup> 雲南市立病院外科, <sup>2)</sup> 雲南市立病院地域総合診療科, <sup>3)</sup> 雲南市立病院泌尿器科, <sup>4)</sup> 雲南市立病院内科, <sup>5)</sup> 雲南市立病院看護科, <sup>6)</sup> 雲南市立病院検査科, <sup>7)</sup> 雲南市立病院栄養管理科, <sup>8)</sup> 雲南市立病院保険推進課, <sup>9)</sup> 雲南市立病院総務課, <sup>10)</sup> 雲南市立病院医学雑誌編集委員会

著者連絡先：森脇義弘 雲南市立病院外科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕

E-mail: yoshimoriwaki@gmail.com

(受付日：2017年2月15日, 受理日：2017年3月21日)

ての社会に対する責任であり、その代償として社会は専門家に地位と高い報酬を与えると考えられている。

査読とは、その流れの中で重要な作業である。医学雑誌からの情報発信は、その後の医療の進歩の根拠となるもので、適正でなければならない。昨今のインターネット社会での情報流布の問題のように、いい加減な都市伝説が医療従事者から発信されてはならない。結果が否定的であっても適正に発信された否定データには価値がある。対象の選択や分析の方法、考察の過程が適正であれば、結果如何に関わらず有用で適正な報告となる。逆に、予想される結果、好ましい結果、受け入れられ易い結果でも、その結果を導く手法が妥当でなければ、発信してはならない情報となる。これらが適正か妥当かの判定を、著者以外の匿名の第三者が行うのが査読となる。

### 査読とは

査読は、その論文の対象の選定や方法、結果の解釈や分析、そこから導かれた結論とその思考過程が適正か、妥当か、我田引水的で独りよがりや独善的でないか、ある一つの考えにだけ偏っていないか、あらゆる方向から検討されているか、著者自身や結果に不利な情報もきちんと提示されているか、医療従事者以外の素人が読んだ場合にも誤解されたり異なった意味に捉えられないか、患者など一般人に悪影響が及ばないか、を判定する作業である。このため、本来査読者には、①査読する論文の内容が自身の専門分野に完全に合致する、②利益相反が潜在的にも存在しない、または、存在する場合は利益相反に関わる全情報を編集者に提供し査読を拒否すべきか判断を仰ぐ、③査読を引き受けることや期限日を守ることの重要性を理解する、などが要求される。また、外部の匿名査読委員にも査読を依頼し、編集委員や編集長がこれをまとめ、著者とやりとりすることも行われる。本誌の査読体制は未成熟なため、今回はそこまでは求められず、査読委員も医療の専門家として職員に査読をお願いした。時間も十分な査読の時間も与えられず申し訳ありませんでしたが、来年度からは時間をかけて、著者と編集委員、査読者の間で論文内容を適正化してゆこうと思っている。因みに、査読には採否判断、合否判断の側面もあるが、本誌の場合は基本的に掲載の立場であり、掲載するに当たって修正すべき箇所を指摘したり、著者と編集者で議論した方がよさそうな箇所を指摘して改善する作業となる。

多くの雑誌では、査読者は著者が判る形で査読するが、著者には誰が査読したかは知らされない。当誌では、院内職員の査読制としているため、誰の査読か見当がついてしまうと思われるが、著者の皆さんには、査読者を詮索しないことを期待する。査読者には、査読結果に誰が査読したかわかる内容は書かかないよう期待する。査読者の匿名性は査読者を守るためにも機能する。査読者には、法的ではなく倫理的な守秘義務があり、発表前の新たな発見を他言したりアイデアを自分の発見のように扱ってはならない。利用する場合は、公開された後、適切なステップを踏んで引用する。当誌の査読にあたっては、発表されるまではその内容については堅く口を閉ざさなくてはならないが、慣れない査読にあたって同僚と相談する程度は許容範囲とみなされ得る。査読者は自分の方向からのみ著者を知っている立場であることを考慮して、守秘義務を遵守しなくてはならない。本人との直接交渉も一応避けなくてはならない。興味本位の情報流出や仄めかしの発言は控えるべきで、採用の判断に関して著者に恩をさせる振る舞いも厳禁である。著者から自分が見えないからといって、内容と関係の薄い事項や著者自体への批判、科学的でない批判、印象に基づく批判の査読記載は避けなくてはならない。

### 一般的な査読コメントの書き方

査読の具体的方法については、科学雑誌の出版倫理に関わる問題を協議・勧告する非営利団体のCOPE (Committee on Publication Ethics) からCOPE Ethical Guidelines for Peer Reviewersとして発表されている<sup>1)</sup>。また、幾つかの出版社からもガイドラインが公表されていて和訳<sup>2)</sup>もある。日本小児科学会でも解説<sup>3)</sup>を公表しており参照されたい。

以下に、これらの指針から抜粋し、実際の査読に当たった際の注意点をまとめる。

- ・General comments (本誌ではカテゴリーとして記載していない)：その論文で主張されている点を査読者がまとめなおし、論文の総評を簡単に記載する。採否に直結するコメントは記載しない。
- ・major comments：通常は論文の採否に関わる問題を記載するが、本誌では原則採用を前提に査読するので、論文の根本的主張点に関わる大きな問題点の指摘と理解すればよい。原則、箇条書きで一点一点問題ある箇所を示しながら(○頁○行、など)、具体的

に提言を添えて記載する。「問題である」「修正を要する」などの指摘は、論文執筆に慣れない著者にはどう修正して良いか判らないことも多い。本来誘導的な修正は避けるべきだが、本誌程度の査読では、例文や修正案も添えてもらえると著者も助かる。間接的な指摘表現や抽象的な査読では著者に査読者の意図が理解できなかつたり、異なった意図での修正となりかねないことに注意する。

- ・ **minor comments** : 論文の根本には関わらない、引用論文の記載方法などスタイルの違い、字句の誤り、小さな改訂で読者が理解しやすくなるなどの小さな問題を、一つずつ具体的、建設的に指摘する。抽象的すぎるコメントは不適當で、改善点の列挙も必要となる。
- ・ 再査読 : 査読に対し著者が返信してきた修正論文の査読。著者が修正した部分以外で、初回査読で指摘しなかった新たな修正の指摘をすると、著者が混乱するので、初回査読を念入りに行うべきである。

### 査読と不正

査読中に不正行為 (misconduct) に遭遇した場合にはその旨を編集委員会に伝える。ここでいう「不正」とは、悪意を持って意図的に行われたものだけでなく、意図せず気づかずに行われた不正も含む。逆に、知らずに不正を行っている場合の救済処置の役割も果たす。悪意があるか意図的かに関わらず、剽窃・盗用 (plagiarism : 他人の表現した文や図、表などまたはそ

の一部をあたかも自身のオリジナルであるように見せかけ流用すること、または意図せず結果的にそうなったこと)、捏造 (fabrication : ないものがあると虚偽の報告すること)、改ざん (falsification : 真の事実と異なる事をあたかも事実のように報告すること)、二重投稿 (duplicated submission : 規則からはずれ2つの媒体や機会ですべて同一内容の発表や報告を行うこと、各団体などから正式に認められている範囲での重複発表はこの限りではないが、確認が必要) などが不正行為の代表となる<sup>4)</sup>。特に、二重投稿の回避は重要で、セカンダリーパブリケーションなどと線引きは難しく、似た内容を当誌と別の媒体で発表しようと考えている場合は、編集委員会まで問い合わせをいただきたい。

### 引用文献

- 1) Hames I. COPE Ethical Guidelines for Peer Reviewers. COPE Council. [http://publicationethics.org/files/Ethical\\_guidelines\\_for\\_peer\\_reviewers\\_0.pdf](http://publicationethics.org/files/Ethical_guidelines_for_peer_reviewers_0.pdf) 2013, V.1., 2017.3
- 2) Elsevier. 査読者ガイドライン. <http://jp.elsevier.com/reviewers/reviewer-guidelines>. 2017. 2017.3.
- 3) 真部 淳. 査読者の心得. 日本小児科学会 英文誌編集委員会. [https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/PI\\_kokoroe.pdf](https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/PI_kokoroe.pdf). 2014.7. 2017.3.
- 4) 日本消化器病学会機関誌編集委員会. 科学論文を執筆するのに必要なモラルとは. 日消誌 2017; 114: 108

## Peer review system in medical scientific article

Yoshihiro Moriwaki<sup>1)2)10)</sup>, Takeo Hiraoka<sup>3)10)</sup>, Masaki Nagase<sup>2)4)10)</sup>,  
Naomi Moriyama<sup>5)10)</sup>, Yuko Kobayakawa<sup>5)10)</sup>, Makoto Fujihara<sup>6)10)</sup>,  
Hiromi Hasegawa<sup>7)10)</sup>, Hatsue Watanabe<sup>8)10)</sup>, and Takuji Katsube<sup>9)10)</sup>

---

<sup>1)</sup> Department of surgery, Unnan City Hospital, <sup>2)</sup> Department of regional general medicine, Unnan City Hospital, <sup>3)</sup> Department of urology, Unnan City Hospital, <sup>4)</sup> Department of internal medicine, Unnan City Hospital, <sup>5)</sup> Department of nursing care, Unnan City Hospital, <sup>6)</sup> Clinical laboratory, Unnan City Hospital, <sup>7)</sup> Department of clinical dietary, Unnan City Hospital, <sup>8)</sup> Division of health and welfare, Unnan City Hospital, <sup>9)</sup> General affairs division, Unnan City Hospital, <sup>10)</sup> Editorial board of Medical Journal of Unnan City Hospital

Correspondence: Yoshihiro Moriwaki, Department of surgery, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-43-2390 / Fax: 0854-43-2398

E-mail: yoshimoriwaki@gmail.com